

# 急性白血病に対する同種移植実施 状況の都道府県間、地方間格差の 検討

三浦裕司<sup>1</sup>、山口拓広<sup>2</sup>、東孝先<sup>3</sup>、濱木珠江<sup>4</sup>、児玉有子<sup>4</sup>、久住英二<sup>4</sup>、  
松村有子<sup>4</sup>、中村利仁<sup>5</sup>、上昌広<sup>4</sup>、小松恒彦<sup>1,3</sup>

1.帝京大学ちば総合医療センター

2.東京大学 生物統計学/疫学予防保健学分野

3.筑波記念病院

4.東京大学医科学研究所 探索医療ヒューマンネットワークシステム

5.北海道大学医学部

# 背景

- \_ 近年、新規の同種移植法の開発や薬剤が臨床応用され、同種移植の適応、管理方法が変わりつつある。
- \_ 同種移植の適応と実施規準に関しては、医師間・施設間に差が存在することが指摘されている。
- \_ 医師間、施設間格差の実態や影響する因子については明らかでない。

# 目的

急性白血病に対する同種移植の地方および都道府県別実施状況を調査し、地方間格差の存在有無とそれに関係する因子を同定することを目的とする。

# 対象

2000～2004年に急性白血病に対して実施された同種造血細胞移植のうち、96.8%が60歳未満<sup>(1)</sup>。



急性白血病に対する同種造血細胞移植の適応を60歳未満と仮定し、この年齢における実施状況を調査。

(1) JSHCT平成17年度全国調査報告書

[http://www.jshct.com/report\\_2005/index.html](http://www.jshct.com/report_2005/index.html)

# 同種移植実施率 (%)

同種移植の  
推定実施数

×100

急性白血病の  
推定発症数

## 急性白血病の推定発症数 (都道府県別、60歳未満)

年齢階級別  
急性白血病発症率<sup>(2)</sup>

×

各都道府県の  
年齢階級別人口<sup>(3)</sup>

(2) がんの統計、財団法人がん研究振興財団

(3) 統計省統計局ホームページ

<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/2004np/zuhyou/05k16-10.xls>.

## 各都道府県における 同種移植実施数の推定

全ての疾患における  
同種移植の実施数  
(1)

× 0.83\*

\*同時期に実施された同種造血細胞移植で、  
急性白血病が占める割合の全国平均

(1) JSHCT平成17年度全国調査報告書  
[http://www.jshct.com/report\\_2005/index.html](http://www.jshct.com/report_2005/index.html)

# 結果

日本全体での60歳未満の  
急性白血病推定発症率

同種移植の推定実施数

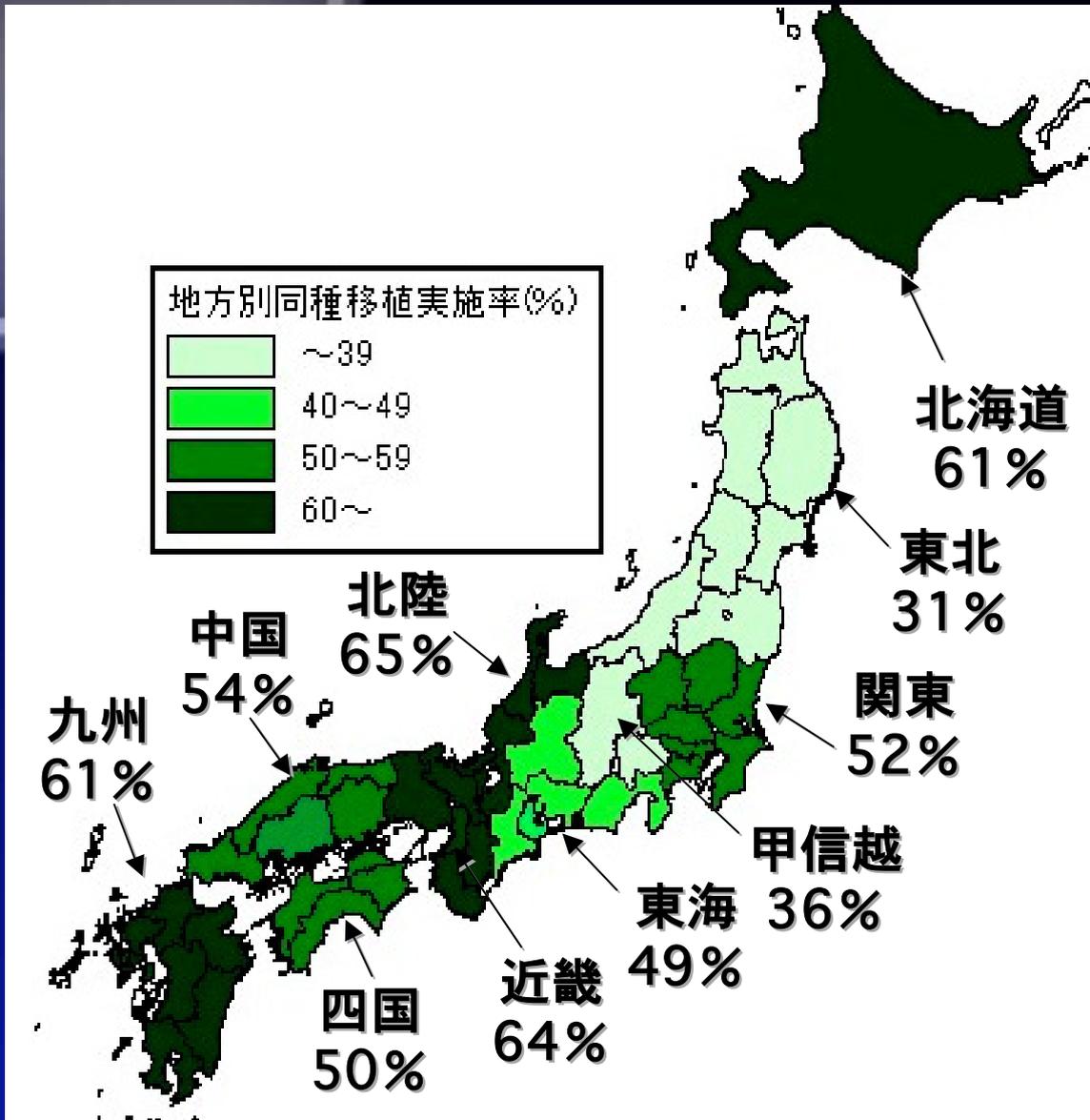
⇒1,633人/年

急性白血病の推定発症数

⇒3,075人/年

×10  
0 =  
53%

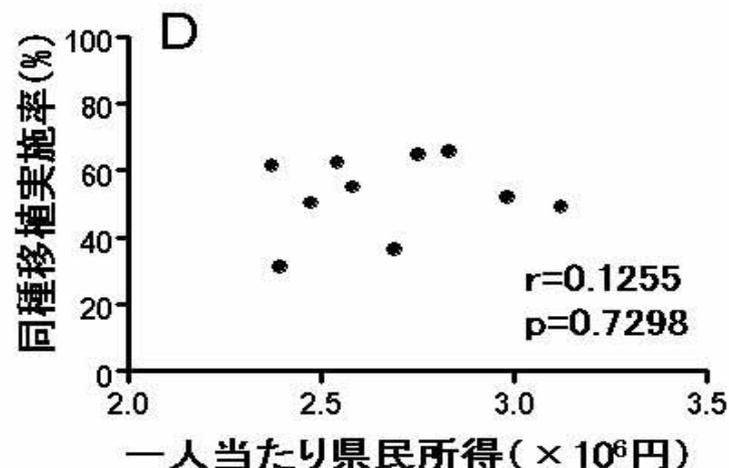
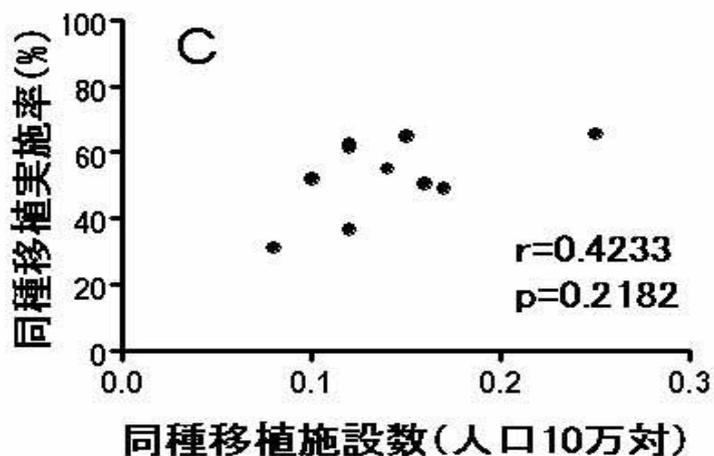
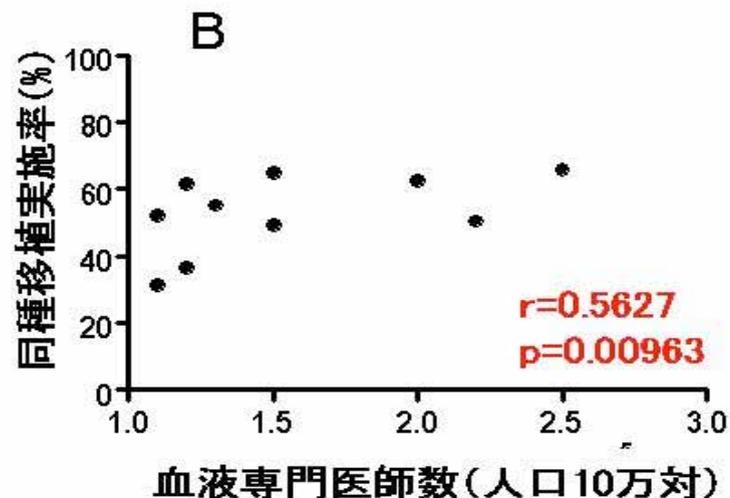
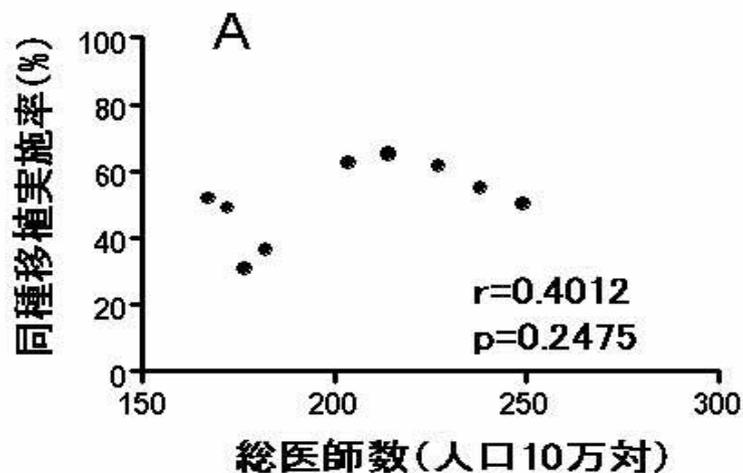
# 地方別の同種移植実施率



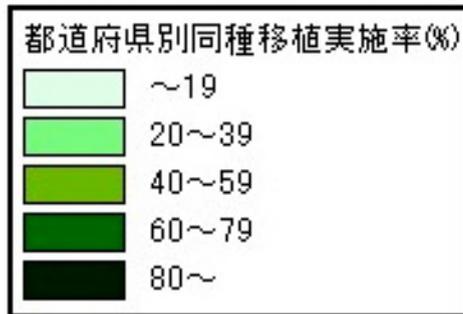
31%(東北)~65%(北陸)  
と**2.1倍の格差**を認める。

**西高東低**の傾向にある。

# 同種移植実施率に影響する因子



# 都道府県別の同種移植実施率



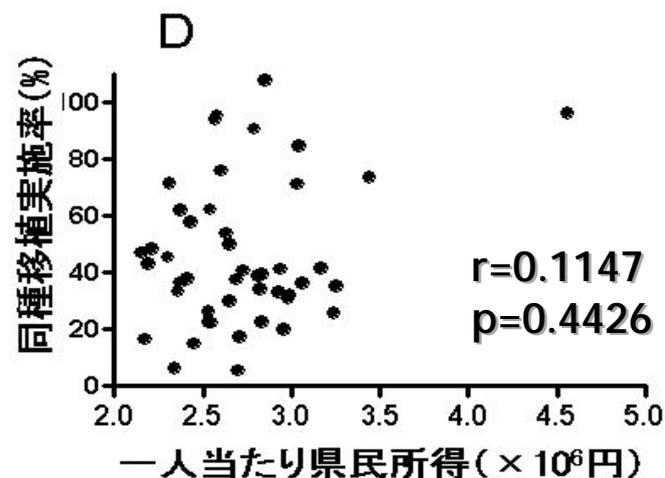
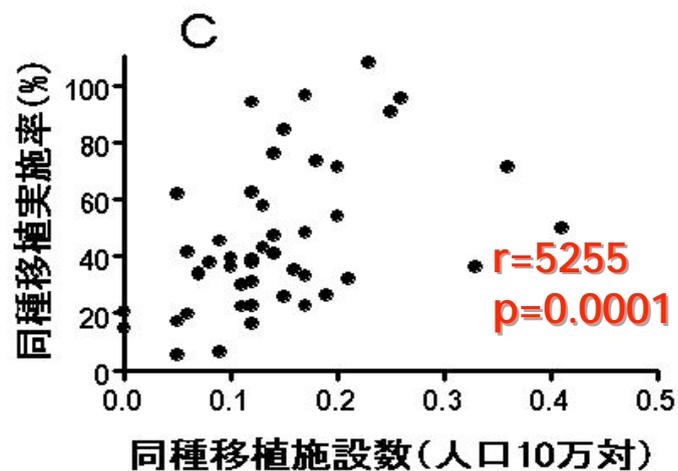
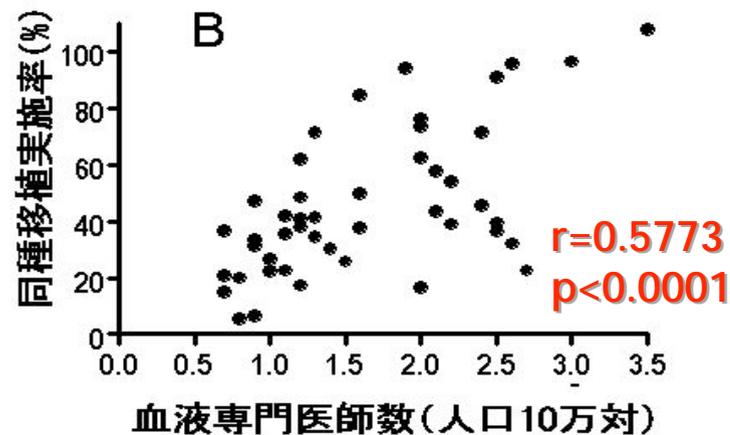
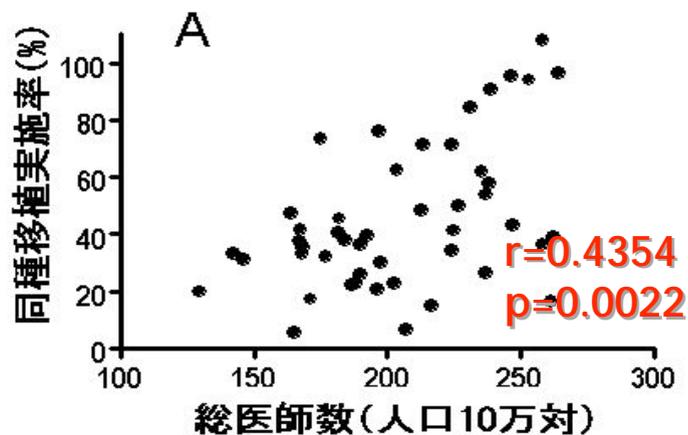
5.9%(岐阜)~100%(京都)  
と19.4倍の格差の存在する。

地方内に最大14.6倍の  
県間格差が存在する。

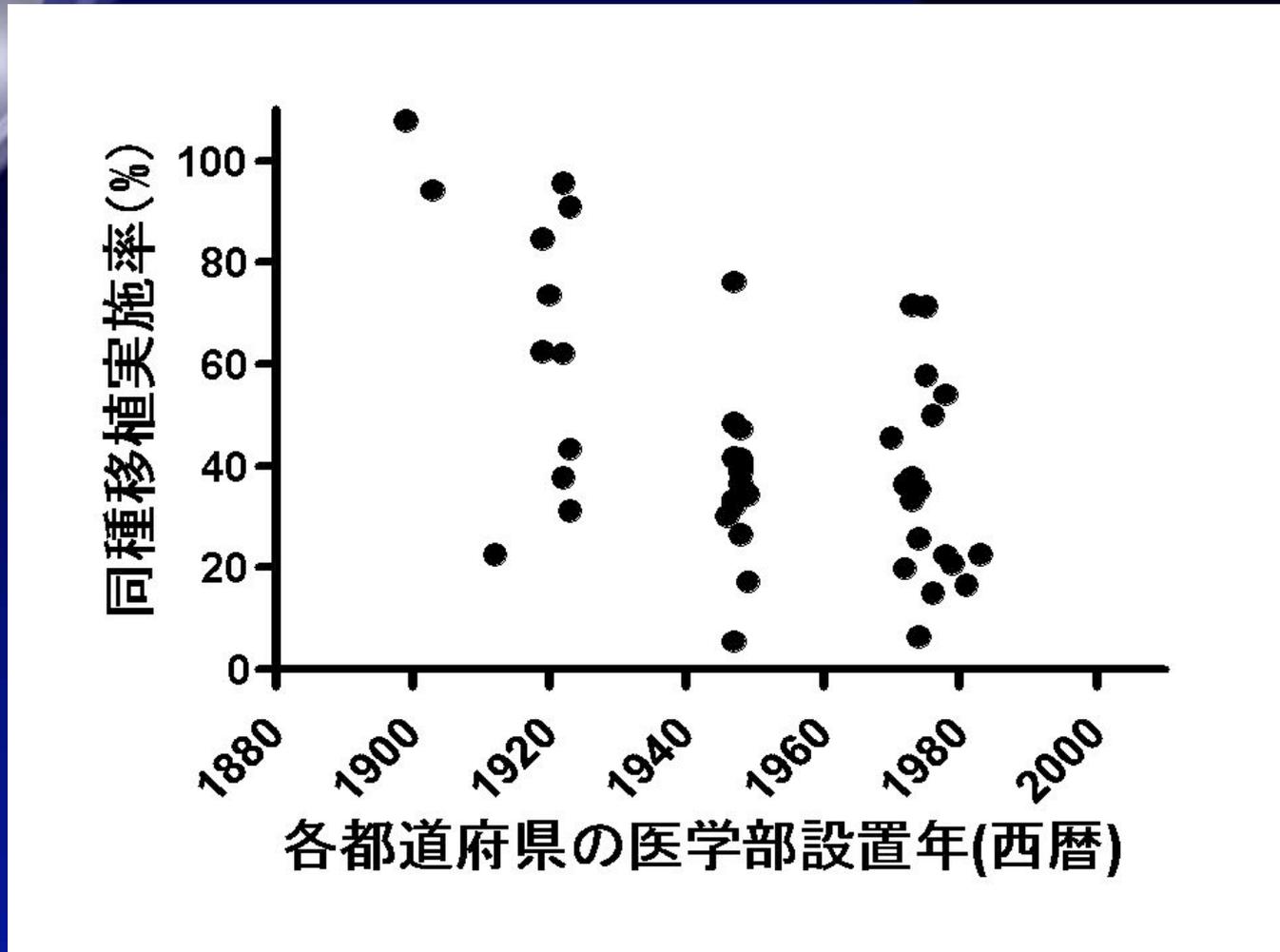
各地方に中核県が存在  
⇒集約化されている。

東北地方のみ中核県  
が存在しない。

# 同種移植実施率に影響する因子



# 医学部設置時期との関連



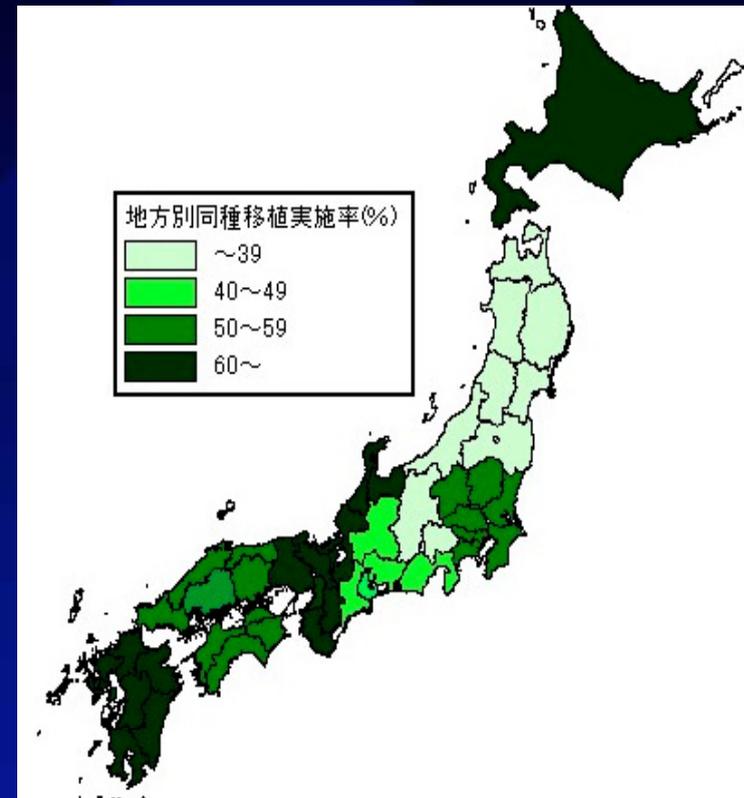
# 結果

—同種移植実施率には、西高東低の地方間格差が存在した。

—同種移植実施率の地方間格差に影響を与える因子として、血液内科医師数があげられた。

—医師養成に関わる大学医学部設置時期は、同種移植実施率に強く相関した。

地方別の同種移植実施率



# 考察

- 西高東低の国内格差を認めたことに関して、1868年の明治維新以降、西日本を中心に大学が設置された事が、現代まで影響を及ぼしていると考えられる。
- 今後、同種移植の普及を達成するには、医師養成の段階に重点を置くことが重要である。

# 結語

—同種移植実施率には、西高東低の地方間格差が存在し、医師数と大学医学部設置時期が影響していた。

—同種移植医療の均てん化や集約化の整備を行い、地方間格差問題を解決する上では、医師養成をあわせて考えなければならない。